

島前合宿を終えて

8月22日から28日まで島前合宿に参加しました。(移動時間を含め)台風の影響もなく予定通り4泊5日でこの合宿を終えました。

私が島前合宿に参加した理由は授業内で合宿の説明があり、「楽しそう」と思ったのがきっかけです。大学生のうちに日本の各地に行ってみたいという願望もあったため参加を決めました。そんな安易な考えで参加を決めたのですが、やはり何かを得て帰ってこようと決意しました。

島前とは島根県隠岐郡島前地域の西ノ島・海士町・知夫村の3町村からなり、東京から約600km離れた離島です。島全体が世界ジオパークに指定されているなど自然が豊かで観光名所も多く存在しています。

始まりは12時間という長距離、長時間の夜行バス移動でした。寝にくく睡眠不足で着いた島根県は正直辛いと、感じました。こんな始まりで約1週間やっていけるのか、不安でいっぱいでした。長時間の夜行バスが終わってから港までバスで1時間、港から海士町までフェリーで3時間と辛い移動時間は続きました。長時間バスに乗っているのは初めてだったので、着いたころにはみんな東京帰りたいたい…と声に出していました。宿泊する宿は宿といっても空き家をお借りしただけなので自分たちで自炊生活をしなければいけませんでした。初日は夕方からバーベキューをしました。海の近くで行ったので、泳いでいる魚が見えるほど透き通ったきれいな海を見ながらおいしいお肉を食べたのは幸せでした。きれいな海とおいしいお肉でテンションが上がり長時間の移動の疲れが吹っ飛んでいきました。みんなで輪になって食べたので先輩と仲良くなれたと感じました。宿までの帰り道はバスが運行していなく歩いて帰りました。夜暗い中歩いていると何か動いているものを発見し、携帯のライトを照らしてみると、なんとカニがいるのです！1匹だけでなく何匹もカニがいました。東京ではまずない光景に驚きが隠せませんでした。宿についてからは二日目、どこの島の観光に行くか話をし、疲れていたのでぐっすり眠りました。

2日目は、西ノ島へ観光に行きました。自由行動日だったので、観光地がたくさんあると聞いた西ノ島を選びました。海に行こうと考えていましたが、水着を持ってきていなく予定変更、港付近で釣りをしました。釣り竿を借り、人生初ではないのですが釣りをしました。初めはなかなか釣れず飽きてきましたが1匹釣れると楽しくて仕方ありませんでした。一緒にやっていた同期と先輩は釣るのがうまくたくさん釣っていました。釣りをしていると地元の方がたくさん声をかけてくださり、人とのつながりの温かさを感じました。東京では味わえないと思いました。夕方に話しかけてくださった地元のおじさんは自分の釣り竿を貸してくださり、アジが大量につれました。釣りの仕方など教えてもらい、釣ったアジもたくさん分けてくださいました。きれいな海で釣りができて幸せでした。宿帰ってからカレーを作りみんなで机を囲んで食べました。どこに観光に行ったのか、何をしたのか話題が絶えませんでした。

3日目は、西ノ島中学校と西ノ島の福祉施設に訪問しました。西ノ島中学校では、中学生の質問に答えながら、大学生が何を学んでいるのか、自分がどのような人生を送ってきたのかを詳しく話しました。中学生にこれからの生き方や今何を努力するかについて考え、自分の考えを表現する力を養うことをねらいとして質疑応答しました。2対1だったので中学生も緊張していましたが、私もとても緊張をし、うまく質問に答えられるかが不安でしたが、質問や会話を通し時間がたつにつれて緊張がほぐれ部活や趣味のことなど話し、中学生と仲良くなれました。そのあとはみんなで給食を食べました。小学校ぶりの給食でとても懐かしく感じました。お昼休みは学校内を見学し、体育館で中学生とバレーボールをして遊びました。その後はペアになっていない中学生と短時間ですが同じように質疑応答しました。中学校訪問で自分の人生など振り返ることができ、現在の自分を改めて考えられるいい機会でした。中学生にとってプラスになったかはわかりませんが少しでもいい刺激になれば良いと感じました。福祉施設訪問では小規模のデイサービスを訪問しました。島のデイサービスが3つある内1番小さい施設で、定員が10名で現在は9名の利用者さんがいました。小規模だからこそできる利用者1人1人とコミュニケーションがとれていました。実際に一緒にお茶したり、ゲームで遊んだりして利用者さん全員とコミュニケーションをとることができました。これは、都市化ではなかなか経験できない島だからこそできることであると思いました。元気な方が多く、自然に囲まれて生活しているからこんなに元気でいられるのだなと感じました。利用者さんは自分が生まれ育った西ノ島のことをたくさん話してくれ、本当に西ノ島を愛しているのだなと感じました。職員さんもみなさん地元の方でした。一度は本土に出たけど島に帰ってきて生活する人がほとんどと聞きました。また、若い人がおらず、職員の数も減ってきているようです。問題を抱えながらも元気に明るく過ごしていて都会では見られない様子でうらやましく感じました。普段聞くことができない貴重なお話を聞くことができ勉強になりました。その日の夜は前日に釣ったアジを自分たちで調理して食べました。みんなで作ることはこんなにも楽しいのかと感じました。一人暮らしでは味わえない楽しさでした。

4日目は、キンチャモチャ祭りという海士町の祭りに参加しました。両手にしゃもじをもって踊りました。幼稚園児くらいの小さい子からお年寄りの方までキレッキレで踊っていました。高校生や社会人など団体が円になってパレードしていました。私たちも飛び入り参加枠に入れさせてもらい、50分踊り続けました。体力がなくへとへとになりましたが島の人と楽しむことができました。まち全体が一体となって参加するお祭りは都会ではなかなかないので良い経験ができました。縦と横の繋がりが濃密であると感じました。祭りの後に花火が打ち上げられました。花火が降ってくるのではないかと思うくらい真上に上がりとても近い距離で見たので今までにない迫力のある花火でした。今年は3回花火大会に行きましたが、1番心に響く花火大会でした。星空もきれいで帰るのが嫌になるくらいでした。

5日目は、島前合宿最終日でした。お昼には島を出ました。お世話になった宿を掃除しているとき帰りたくないといみんなで話しました。それくらい充実した合宿でした。

島前合宿を通しては、島やそこに住む人の魅力を知ることができ、東京での大学生活ではできないことを経験できました。また、人との関りが大切であることを改めて知ることができました。不安もありましたがそれ以上に得られたものは大きく、思い切って島前合宿に参加してよかったです。そんな合宿になったのも企画をしてくださった先輩方、一緒にいろいろな体験をした同期、そして何より心温かく私たちを迎え入れてくださった島の方々のおかげです。たくさんの方に感謝したいです。企画する立場になったとき先輩方のようにできるかはわかりませんが、参加してくれる人に「楽しかった。」「良い経験ができた。」と言ってもらえるように今年以上の合宿にしたいです。

今回のこの経験を生かして大学生活を励み、現代福祉学部で学んでいきたいと思います。以上で、島前合宿の報告とさせていただきます。